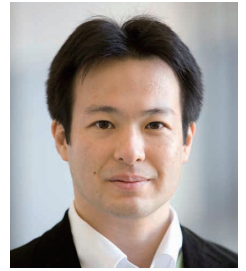


## ロシアのシリアへの浸透と イスラエルの安全保障



東京大学 先端科学技術研究センター 教授 池内 恵

中東地域は国際秩序の再編期にある。米国の中東への関心の低下は、地域大国の自律性を増大させ、地域大国間の競合や協調が中東政治の主要な要素になりつつある。その中で特筆されるのが、一方でイスラエルのある種の大国としての重要性・影響力の高まりであると共に、外部の超大国としての米国の役割を部分的に置き換えるロシアの浸透である。

トランプ政権の中枢と強い繋がりを持つイスラエルの影響力は、以前にもまして突出して現れていると共に、ロシアは各地の紛争や各国政府への関与の度を深め、超大国に準じる地位、あるいは実質上は域内の地域大国に等しい存在感を持ってきている。本稿ではイスラエルとロシアの関係の近年の進展と、それが中東地域全体の秩序形成に及ぼす影響を検討する。

### 1. ロシアによるシリアへの防空システムの配備

現在進行する中東地域の国際秩序の変化の一つの大きな要素は、中東に大きな影響力を行使してきた米国の関与の意志の低下であり、それによって生じる権力の空白を埋める形で、ロシアの存在感が増大している。

ロシアの存在感は特にシリアにおいて高まっている。ロシアは北西部ラタキア付近のフメイミーム空軍基地や西部タルトゥースの海軍基地に、軍の拠点を構築している。中東地域情勢に重大な帰結を及ぼしうるのは、これらのロシア軍基地周辺に配備された最新鋭の防空システムである。2015年11月のトルコ軍によるロシア軍機撃墜をきっかけに、ロシアはシリア国内にS-400や Pantsir S1 などの地対空ミサイル・防空システムの配備を進めた<sup>(1)</sup>。

ロシア軍のシリアへの展開とともに配備されたこれらの最新鋭の地対空ミサイルや高度な空軍力は、潜在的にはイスラエルがこれまで近隣アラブ諸国に対して確保してきた制空権の優勢を覆しかねない。イスラエルは自国の安全保障に関してきわめて敏感であり、周

---

(1) “Russia S-400 Syria missile deployment sends robust signal,” *BBC*, 1 December 2018. (<https://www.bbc.com/news/world-europe-34976537>)

辺諸国に将来のイスラエルの安全に脅威となりうる動きを察知した時に、しばしば空爆といった直接的な軍事的な対応を行う。即時の単独の対応を可能にする制空権の優勢の確保は、イスラエルにとって死活的な課題である。ロシアのシリアへの最新鋭の地对空ミサイルは、その性能や運用能力が触れ込み通りのものであるならば、イスラエルが周辺諸国内で生じていると認識した脅威の芽を直接的に実力で除去する能力を、大幅に阻害する可能性を持つ。

この環境変化に対してイスラエルはどのように反応していくのだろうか。ロシアの防空システム配備により、イスラエルが自国の安全の確保のために行動する自由を大きく制約されるか、制約されたと認識すれば、その帰結は重大なものとなりうる。イスラエルが従来確保していた制空権の圧倒的な優勢を失えば、シリアやレバノンなど敵対的な近隣諸国との関係はより不安定なものとなりかねない。イスラエルに対する挑発行動がより容易に行われうると共に、それを見越したイスラエルによる予防的な対抗措置を惹起する可能性も高い。

ただしロシアの最新鋭の地对空ミサイルのシリアへの展開がそのような緊張の高まりを必ずもたらすと断定することはできない。イスラエル・ロシアの外交的・軍事的なコミュニケーションのチャンネルが緊密に作動すれば、イスラエルとロシアの直接的な対立や衝突を回避することも可能だろう。イスラエルのネタニヤフ首相とロシアのプーチン大統領は頻りに会談を行っており、イスラエルがシリアやレバノンで行う、イラン系勢力と目される勢力に対する軍事攻撃や、ロシアによるシリアへの部隊配備やシリア軍への兵器供給について、双方の間にはかなり緊密な連絡があり、実質上の承認の上で行われていると考えられる。シリアをめぐるロシアとイスラエルは潜在的に競合・対立関係にあるが、首脳間の緊密な交渉や、軍当局間の連絡調整によって、実質上はロシアとイスラエルがシリアの管理をめぐる協調している面がある。

弁別されるべきは、ロシアの駐留ロシア軍・基地、およびロシア自身の死活的な権益を守るために配備され、ロシア軍・部隊によって運用される防空システムと、ロシアからシリアに供与され、シリア軍によって運用される防空システムである。また、シリア軍によって運用される防空システムについても、どの程度ロシアの軍事教官の指導下にあるか、

---

#### 筆者紹介

1996年、東京大学文学部イスラム学科卒。アジア経済研究所研究員、国際日本文化研究センター准教授、東京大学先端科学技術研究センター准教授（イスラム政治思想分野）を経て、2018年10月より東京大学先端科学技術研究センター教授（グローバルセキュリティ・宗教分野）。ウッドロー・ウィルソン国際学術センター客員研究員、ケンブリッジ大学客員フェロー、アレクサンドリア大学客員教授などを兼任した。中東地域研究、イスラム政治思想を専門とする。主要著作に『現代アラブの社会思想—終末論とイスラム主義』（講談社、大佛次郎論壇賞）、『アラブ政治の今を読む』（中央公論新社）、『書物の運命』（文藝春秋、毎日書評賞）、『イスラム世界の論じ方』（中央公論新社、サントリー学芸賞）、『中東危機の震源を読む』（新潮社）、『イスラム国の衝撃』（文藝春秋、毎日出版文化賞・特別賞）。最新の著作は『増補新版イスラム世界の論じ方』（中央公論新社）、『サイクス＝ピコ協定 百年の呪縛』（新潮選書）、『シーア派とスンニ派』（新潮選書）。

個人ブログ「[中東・イスラム学の風姿花伝](#)」でも情報発信中。

---

必要な諜報情報や専門技術・ノウハウをロシアにどの程度依存するかによって、実態は異なってくる。

2015年11月のトルコ軍機によるロシア軍機撃墜事件を契機にロシアによってシリアへ配備された防空システムは、主に駐留するロシア軍・部隊・基地を防衛するものであったと考えられる。それに対して、従来からロシアがシリアに供与していた地对空ミサイルはS-200など旧型のままであり、シリア軍そのものの防空能力にさほどの変化はなかった模様だ。ここから、ロシアの2015年11月段階でのシリアへの防空システム配備は、イスラエルにとっては、シリア内部の反イスラエル勢力に対する軍事行動に決定的な制約を加えたものとは言えなかった。しかしロシアの拠点・権益にイスラエル軍の行動が脅威となる場合はロシアの最新鋭の地对空ミサイルによる反撃を受ける可能性が生じたため、イスラエルはロシアとのより緊密な協議を必要とするようになった。同時にまた、イスラエルにとって、ロシアとの交渉を有利に進めるためにも、ロシアの防空システムを掻い潜る技術的・戦術的な能力を備えていることを、一定程度誇示する必要性も生じたと言える。そこから、ロシア・イスラエル関係の複雑さは増した。

## 2. シリアによるロシア機撃墜事件の波紋

2018年9月17日に発生した東地中海上でのロシア軍機撃墜事件は、シリア上空の制空権をめぐるロシア・イスラエル関係の実態を垣間見させると共に、そこに再調整がなされる過程も示した。この日、東地中海上で、ロシアのイリュージン20型機が、ロシアがシリアに供与した旧型の地对空ミサイルS-200によって撃墜された。シリアの防空システムは、東地中海上をフメイム空軍基地付近に向けて偵察飛行に飛来したイスラエル空軍F16に対して反応したが、そこで誤ってロシア空軍機を撃墜した模様である。ロシアはこれについて、シリアではなくイスラエルを非難した。イスラエルがロシア軍機をシリアの防空システムからの防御の遮蔽物として使った、イスラエルはロシアに十分に情報を伝えなかった、というのが非難の内容である<sup>(2)</sup>。

ロシアの表向きのイスラエル非難の語気は荒かったものの、当初より、ロシアとイスラエルの間に政治外交・安全保障上の連絡が緊密であることは明らかだった。プーチン大統領の発言は抑制されたものであり、イスラエルを非難しながらも、それをロシア・イスラエル間の対立や緊張に繋げるのではなく、シリアをめぐる一層緊密な連絡・協議につなげようとする意志が当初より示されていた<sup>(3)</sup>。ネタニヤフ首相も、ロシア軍機撃墜へのイスラ

---

(2) “Russia blames Israel after military plane shot down off Syria,” *BBC*, 18 September 2018. (<https://www.bbc.com/news/world-europe-45556290>)

(3) “Putin seeks to defuse Israel crisis after Russian plane downing,” *Al-Jazeera*, 19 September 2018. (<https://www.aljazeera.com/news/2018/09/israel-rejects-responsibility-downing-russian-aircraft-180918130621740.html>)



エル軍の責任は否定しつつ、早期に軍高官をロシアに派遣して協議に当たさせた<sup>(4)</sup>。

しかしロシアはこの事件を受け、シリア政府軍への武器供与の水準を上げ、少なくとも表面上・理論上は、これまでよりもイスラエルの安全保障に制約を与えることで、イスラエルに一定の「罰」を与えた形にした。ここでロシアがイスラエルに対する「罰」として誇示したのが、9月末までに発表され、10月初旬の配備に際してはプロパガンダ・メディアを通じて大々的に宣伝された<sup>(5)</sup>、シリア政府軍への地対空ミサイルS-300の配備である<sup>(6)</sup>。これはイスラエルとシリアとの間の軍事バランスを揺るがしかねないものであり、イスラエルが安全保障上の最大の脅威とするイランの影響力がシリア・レバノンに及んでいることを考えれば、イスラエルの脅威認識・危機意識の高まりを通じて地域情勢に緊張を高めかねない動きと言える。それまでに供与されていたS-200より高度化され、最新鋭により近いS-300のシリア政府への配備は、旧世代の兵器を用いて技能に欠いたシリア軍が過失を犯したことによってロシア軍機の撃墜事件が生じたとする見方に基づけば妥当と言えるため、撃墜事件についてシリア側に責任を帰すイスラエルにとっても否定はし難い。とはいえ、シリア軍自身の防空能力が向上することで、イスラエルの安全保障の確保のために課されるコストは上がる。今後イスラエルは、シリア・レバノンにおけるイスラエルに対する敵対的な勢力の存在を察知した際に、ロシアとの連絡調整によりロシア軍基地・部隊に損害を与えることなく攻撃を行うだけでなく、より強化されたシリア軍の防空システムに向き合わなければならなくなる。また、新たに供与されたシステムの運用を、シリア軍が自立して単独に行うことができるまでの試験・訓練期間中には、シリア軍の防空システムの運用にもロシア軍人あるいはロシア人教官が関わる事が考えられる。そこから、イスラエル軍によるシリアでの軍事行動が、ロシア人を巻き込む危険性はより高まるといえ

---

(4) “Putin Says Israel Didn't Down Russian Aircraft; Netanyahu Offers Condolences,” *Haaretz*, September 19, 2018. (<https://www.haaretz.com/middle-east-news/syria-shoots-down-russian-spyplane-during-israeli-strike-russia-blasts-israel-you-re-to-blame-for-15-killed-1.6489773>)

“Israeli delegation heads to Moscow after downing of Russian plane - but denies responsibility,” *Independent*, 20 September 2018. (<https://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/russian-plane-down-syria-crash-israel-moscow-a8546871.html>)

(5) “WATCH Footage of Russian S-300 Missile Systems Being Delivered to Syria,” *Sputnik*, 3 October, 2018. (<https://sputniknews.com/middleeast/201810031068540236-s300-syria-deliveries/>); “S-300 Supplies to Syria Underscore 'Radical Change' in Russian Policy - Observer,” *Sputnik*, October 7, 2018. (<https://sputniknews.com/analysis/201810071068655842-russia-syria-us-s300/>)

(6) “Downing of Russian Jet: Israel Fears Putin Will Clip Its Wings in Syria,” *Haaretz*, September 22, 2018. (<https://www.haaretz.com/middle-east-news/syria/.premium-downing-of-russian-jet-israel-fears-putin-will-clip-its-wings-in-syria-1.6492314>); “After Downing of Spy Plane, Russia to Supply Assad Regime With S-300 Air Defense System,” *Haaretz*, September 24, 2018. (<https://www.haaretz.com/middle-east-news/syria/.premium-after-downing-of-spy-plane-russia-to-supply-assad-regime-with-s-300-air-defense-system-1.6494617>)

よう。そのことはイスラエルのロシアとの協議・調整をより複雑・困難なものにし、結果としてイスラエルのシリアにおける行動の自由を制約することになりかねない。

ロシアによるシリア軍へのS-300の供与に対して、イスラエルは、米国と共に、表向きは反対を表明している<sup>(7)</sup>。しかしロシアによるシリア軍へのS-300の配備は実際にどの程度、イスラエルの安全保障に影響を与えるのだろうか<sup>(8)</sup>。純軍事的にはイスラエル軍はS-300の能力を上回るという解説<sup>(9)</sup>がなされるものの、今後はイスラエル空軍のシリア近辺での行動の自由はかなり制約されるという観測もある<sup>(10)</sup>。そしてシリア軍へのS-300の導入によってイスラエルの制空権の優勢に変化があったかどうかよりもさらに大きな問題として、アサド政権がイスラエル国境付近を掌握していく中で、イスラエルの対シリア政策、シリアをめぐるロシアとの関係に再調整の必要性があるとの認識が固まりつつある<sup>(11)</sup>。

この再調整は、プーチン大統領とネタニヤフ首相の間で進行中と見られる。プーチン大統領とネタニヤフ首相は9月24日に電話会談を行いS-300配備問題を議論した<sup>(12)</sup>。10月7日にはネタニヤフ首相が、プーチン大統領と近く会談することで合意したと発表した<sup>(13)</sup>。そしてこの会談は単にS-300配備をめぐるものではなく、ロシアによるイスラエル・イラン間の関係改善の仲介提案<sup>(14)</sup>が議題に上ると見られる。シリア内戦がアサド政権の優位に進む中でイランのシリアにおける拠点の形成が進むことがイスラエルにとって最も喫緊の脅威

- 
- (7) “Netanyahu Warned Putin: S-300 Air Defense System in Irresponsible Hands Will Endanger Region,” *Haaretz*, September 24, 2018. (<https://www.haaretz.com/israel-news/netanyahu-and-putin-discussed-deploying-s-300-missiles-in-syria-kremlin-says-1.6494895>); “‘Major mistake’: Israel, US warn Russia against giving S-300 missiles to Syria,” *The Times of Israel*, 24 September 24, 2018. (<https://www.timesofisrael.com/us-warns-russia-deploying-s-300-in-syria-would-be-major-mistake/>)
- (8) “Will supply of S-300 to Syria harm Russia-Israel ties?” *Al-Jazeera*, 26 September 2018. (<https://www.aljazeera.com/news/2018/09/supply-300-syria-harm-russia-israel-ties-180926075114065.html>)
- (9) “Israel can overcome the S-300, but must resolve crisis with Russia,” *Ynetnews*, October 4, 2018. (<https://www.haaretz.com/israel-news/.premium-israel-faces-a-much-bigger-challenge-in-syria-than-russian-s-300s-1.6531106>)
- (10) “With Russia's S-300 in Syria, Israel Will Have to Think Twice About the Next Strike,” *Haaretz*, September 26, 2018. (<https://www.haaretz.com/israel-news/.premium-russia-s-300-syria-israel-think-twice-striking-iran-targets-1.6495106>)
- (11) “Israel Faces a Much Bigger Challenge in Syria Than S-300s,” *Haaretz*, October 7, 2018. (<https://www.haaretz.com/israel-news/.premium-israel-faces-a-much-bigger-challenge-in-syria-than-russian-s-300s-1.6531106>)
- (12) “Putin and Netanyahu discuss S-300 deployment in Syria by phone: Kremlin,” *Reuters*, September 25, 2018. (<https://www.reuters.com/article/us-mideast-crisis-syria-russia-s300/putin-and-netanyahu-discuss-s-300-deployment-in-syria-by-phone-kremlin-idUSKCN1M41YX>)
- (13) “Netanyahu and Putin Agree to Meet for First Time Since Downing of Russian Plane Over Syria,” *Haaretz*, October 7, 2018. (<https://www.haaretz.com/israel-news/netanyahu-and-putin-agree-to-meet-for-first-time-since-downing-of-russian-plane-1.6532852>)
- (14) “Moscow Mediating Between Israel and Iran After S-300 Delivery, Report Says,” *Haaretz*, October 6, 2018.

であることを受けて、イスラエルとイランとの緊張緩和を通じて、シリアにおけるイスラエルとロシアの対立を回避しようとする動きといえよう。ロシアはシリアへのより高度な防空システムの供与という切り札を通じて、イスラエルに圧力をかけ、イランとの対話を促した形である。ここでロシアは中東における大国あるいは超大国としての役割を誇示することに成功している。

9月17日のロシア機撃墜事件は、表面上はロシア・イスラエル間の一時的な緊張をもたらしたが、中長期的には、シリア内戦の管理をめぐってロシアとイスラエルという主要な大国が協議を進め、協調を深める機会になり、ロシアが中東における政治外交上の存在感を高める舞台ともなった。